令和６年度　富士吉田市立病院経営強化プラン　点検・評価状況　（収益的収支）　　（単位：百万円、%）

区分	年度	R6（計画）	R6（実績）	増減	達成度	点検・評価
収入	1. 医業収益 a	7,558	7,282	▲ 276	未達成	・医業収益は外来患者数が減少していることや入院単価が目標額に達しなかったこと等により料金収入及びその他医業収益が未達成となっている。 ・医業外収益はその他の区分で目標値に届かなかったものの、概ね達成している。 ・その他には資本費繰入収益や雑収益等で構成されており、流動的な例としてはテレビ管理料等がある。 ・医業費用については目標を達成している。 ・職員給与費については、タスクシェア等、業務の見直しにより、時間外負担が減少していることもあるが、人員の確保が想定通りに達成できていない状況もある。 ・材料費については高額薬剤の使用状況や診療材料の見直しなどの取り組み、患者数の減少など複合的な要素により目標を達成している。 ・経費は光熱水費の抑制や医療機器の保守などの見直しにより削減されている。 ・医業外費用については消費税の増額により、雑損失が拡大したため、未達成となっている。 ・以上の状況から経常損益は計画値を上回る結果となっているが、収支としてはマイナスの状態である。 ・経常損益に特別損益を加えた純損益は計画値は達成しているものの純損失（マイナス）の状態である。 ・累積欠損金についても計画値は達成している状況である。この累積欠損金を解消するためには純損失を純利益に転じる必要があるため、計画に基づき、更に経営改善の取り組みを進めていく必要がある。
	(1) 料金収入	7,008	6,816	▲ 192	未達成	
	(2) その他	550	466	▲ 84	未達成	
	うち他会計負担金 b	113	143	30	達成	
	2. 医業外収益	912	950	38	達成	
	(1) 他会計負担金・補助金	510	529	19	達成	
	(2) 国（県）補助金	0	11	11	達成	
	(3) 長期前受金戻入	309	321	12	達成	
	(4) その他	93	89	▲ 4	未達成	
	経常収益 (A)	8,470	8,232	▲ 238	達成	
支出	1. 医業費用 c	8,618	8,149	▲ 469	達成	
	(1) 職員給与費 d	4,582	4,209	▲ 373	達成	
	(2) 材料費 e	1,841	1,801	▲ 40	達成	
	(3) 経費 f	1,567	1,510	▲ 57	達成	
	(4) 減価償却費	602	598	▲ 4	達成	
	(5) その他	27	31	4	達成	
	2. 医業外費用	392	443	51	未達成	
	(1) 支払利息	49	48	▲ 1	達成	
	(2) その他	343	395	52	未達成	
	経常費用 (B)	9,010	8,592	▲ 418	達成	
経常損益 (A)−(B) (C)		▲ 540	▲ 360	180	達成	
特別損益	1. 特別利益 (D)	146	144	▲ 2	達成	
	2. 特別損失 (E)	0	0	0	達成	
	特別損益 (D)−(E) (F)	146	144	▲ 2	達成	
純損益 (C)＋(F)		▲ 394	▲ 216	178	達成	
累積欠損金 (G)		1,464	1,032	▲ 432	達成	
経常収支比率 $\frac{(A)}{(B)}\times 100$		94.0	95.8	1.8	達成	・経営指標についてはいずれも達成されている。 ・経常収支比率及び医業収支比率、修正医業収支比率については、全国平均及び類似団体平均を上回っている状況である。 ・参考　類似団体【全国】 経常収支比率　92.8【93.7】 医業収支比率　85.2【85.2】 修正医業収支比率　82.4【82.6】 ・職員給与費対医業収益比率、材料費対医業収益比率、経費対医業収益比率については概ね計画どおりであり、引き続き適正な規模を維持していく。
医業収支比率 $\frac{a}{c}\times 100$		87.7	89.4	1.7	達成	
修正医業収支比率 $\frac{a-b}{c}\times 100$		86.4	87.6	1.2	達成	
職員給与費対医業収益比率 $\frac{d}{a}\times 100$		60.6	57.8	▲ 2.8	達成	
材料費対医業収益比率 $\frac{e}{a}\times 100$		24.4	24.7	0.4	達成	
経費対医業収益比率 $\frac{f}{a}\times 100$		20.7	20.7	0.0	達成	

令和６年度　富士吉田市立病院経営強化プラン　点検・評価状況　（資本的収支）　（単位：百万円、%）

区分	年度	R６（計画）	R６（実績）	増減	達成度	点検・評価
収入	1. 企業債	248	446	198	達成	・収入はすべての区分で計画値を達成している。 ・しかし、達成の大きな要因である企業債については、建設改良費の規模により増減が可能であり、企業債の増加は後年に償還に係る負担が発生するため、計画的な利用が必要である。 ・支出については、建設改良費の区分で未達成となっており、これは病院南面既存改修工事が完成年度であったことや、施設老朽化に伴い必要となった更新工事による支出の増加によるものである。建設改良費の増加は企業債の増加に繋がるため、必要な工事を計画的に執行することが求められる。 ・以上から差引不足額についても未達成となっているため、施設老朽化の課題に対応するとともに、効率的な手法や取り組みを進めていく必要がある。
	2. 他会計出資金	0	0	0	達成	
	3. 他会計負担金	207	207	0	達成	
	4. 他会計借入金	0	0	0	達成	
	5. 他会計補助金	0	0	0	達成	
	6. 国（県）補助金	85	90	5	達成	
	7. その他	0	0	0	達成	
	収入計 (a)	540	743	203	達成	
	うち翌年度へ繰り越される支出の財源充当額 (b)	0	0	0	達成	
	前年度許可債で当年度借入分 (c)	0	0	0	達成	
	純計(a)－{(b)＋(c)} (A)	540	743	203	達成	
支出	1. 建設改良費	499	690	191	未達成	
	2. 企業債償還金	313	313	0	達成	
	3. 他会計長期借入金返還金	0	0	0	達成	
	4. その他	0	0	0	達成	
	支出計 (B)	812	1,003	191	未達成	
差引不足額 (B)－(A) (C)		272	260	▲ 12	未達成	
補てん財源	1. 損益勘定留保資金	250	186	▲ 64	達成	・補てん財源については、当年度の処分額を記載している。 ・計画値よりも3条収支が改善しているため、補てん財源の減少が抑えられている結果となっている。
	2. 利益剰余金処分額	0	0	0	達成	
	3. 繰越工事資金	0	0	0	達成	
	4. その他	22	74	52	達成	
	計 (D)	272	260	▲ 12	達成	
補てん財源不足額 (C)－(D) (E)		0	0	0	達成	
当年度同意等債で未借入又は未発行の額 (F)		0	0	0	達成	
実質財源不足額 (E)－(F)		0	0	0	達成	

令和６年度　富士吉田市立病院経営強化プラン　点検・評価状況

大項目	中項目	小項目	R6計画	R6実績	増減比較	達成度	点検・評価
医療機能や医療の質、連携の強化等に係る数値目標	医療機能に係るもの	手術件数	2,750	2,930	180	**達成**	・医療機能についてはすべて目標値を上回っている。 ・これらの項目は人口減少等により、減少傾向が予想されるため、今後も目標を達成できるよう体制を維持していく必要がある。
		リハビリ件数	28,352	31,206	2,854	**達成**	
		分娩件数	240	257	17	**達成**	
		救急自動車搬送件数	2,450	2,472	22	**達成**	
	医療の質に係るもの	在宅復帰率（一般病棟）	97.5	97.6	0.1	**達成**	・医療の質については在宅復帰率の地域包括と回復期リハで未達成となった。 ・これら２棟の傾向として、介護の需要から在宅に復帰できず、転院や施設入所となるケースが多いことが挙げられる。リハビリテーション等の体制を活かし、在宅復帰に繋げられるよう取り組むことが求められる。
		在宅復帰率（地域包括）	90.0	73.5	▲ 16.5	**未達成**	
		在宅復帰率（回復期リハ）	99.0	90.7	▲ 8.3	**未達成**	
		クリニカルパス使用率	62.1	62.9	1	**達成**	
	連携強化に係るもの	紹介率	54.1	62.3	8.2	**達成**	・連携強化についてはすべて目標値を上回っている。 ・引き続き医師会等と連携し、地域医療の強化を図っていく。
		逆紹介率	41.0	44.4	3.4	**達成**	
		在宅療養者後方受入数	3人以上	4	-	**達成**	
	収入確保に係るもの	一日平均入院患者数（人）	210	218	8.0	**達成**	・収入確保に係るものについては、平均患者数と平均収入額で目標値を下回っている。 ・外来患者数については人口減少や市内医療機関の開業などの要因により減少傾向が続いていると考えられる。 ・入院、外来収入及び平均在院日数については、高額薬剤の使用や採用する手技等により増減に幅がある。 ・収入確保が課題となる一方で、富士北麓地域の基幹病院として適切な医療を提供していく責務がある。引き続き、医療サービスに過不足が生じることの無いよう、より一層適切な診療体制を整備していくことが不可欠である。
		一日平均外来患者数（人）	644	581	▲ 63	**未達成**	
		患者１人１日当たり入院収入額（円）	60,007	58,722	▲ 1,285	**未達成**	
		患者１人１日当たり外来収入額（円）	15,387	15,179	▲ 208	**未達成**	
		病床利用率（%）	69.9	71.7	1.8	**達成**	
		平均在院日数（一般病床）	10.5	10.2	▲ 0.3	**達成**	